

HONG KONG LINER



東京オペラシティ コンサートホールで行われたAYOの公演の様



東京でのレセプションで、AYOのジェームズ・トンブソン主席（写真・右から3人目）、劉國雄（キース・ラウ）CEO（左から2人目）、AYO日本事務局の加納國雄事務局長（左端）、首席指揮者のジョセフ・パステリアン氏（右から2人目）、ソプラノ歌手のリディア・トイシャー氏（右端）と記念撮影する欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表（左から3人目）

アジアユースオーケストラが4年ぶりに来日

2019年以來となるツアーで香港と日本の文化交流を促進。黒部と東京で計3回のコンサートを開催

8月末、アジアユースオーケストラ（AYO）が4年ぶりに来日し、富山県黒部市と都内で計3回のコンサートを行いました。香港経済貿易代表部も協力したこのコンサートは、AYOにとって2019年のアジアツアー以来、初めての日本公演となりました。

今年のAYOはアジア各地からオーディションを経て集まった、日本の7名を含む約100名の若手音楽家で構成され、7月下旬から8月にかけてイタリアのドッピアコ、ベルガモ、ブレシア、ドイツのベルリンとトリアー、続いて香港、タイのバンコク、台湾の台北と嘉義で演奏を披露した後に来日。8月28日に黒部市国際文化センターカラーレホールで、30日と31日には東京オペラシティ コンサートホールで公演を行い、ヨーロッパとアジアをめぐる今期のツアーを締めくくりました。

8月31日、コンサート前に開かれたレセプションでの挨拶で、香港経済貿易代表部の欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表は、新型コロナウイルス感染症の流行を経てAYOの公演ツアー

が再開し、日本でグランドフィナーレを迎えることを歓迎して、「この壮大なフィナーレを祝うにあたり、人々を団結させ、癒し、変化をもたらす音楽の力と素晴らしさを思い起しましょう。今宵が今後のAYOの無限の可能性の始まりとなるとともに、若い才能を育て、文化交流を促進することの重要性を改めて認識するきっかけとなりますように」と述べました。

香港を拠点とするAYOは、毎年アジア全域から多くの才能豊かな若手音楽家を香港に集わせて、世界各地での公演や文化交流の機会を提供してきました。香港と日本の芸術・文化交流を促進する上でも重要な役割を果たしており、1990年に初公演を熊本で開催して以来、毎年のようにツアーで日本を訪れています。AYOは2010年、若手芸術家の育成への多大な貢献が認められ、高松宮殿下記念世界文化賞で若手芸術家奨励制度の奨励対象に選ばれたほか、2015年には音楽という共通言語を通じてアジア全域の若者の友好と理解を促進したとして、日経アジア賞（文化・社会部門）を受賞しています。

IMD世界競争力ランキングで香港は第7位

引き続き世界有数の競争力を有すると認められた香港。「政府の効率性」や「ビジネス法制」で上位

国際経営開発研究所（IMD）が6月に発表した最新の「2023年世界競争力年鑑」で、香港は総合第7位にランクされました。

今回の調査における4つの主要評価項目のうち、「政府の効率性」で香港は前回と同じく2位。「インフラ」では順位を上げました。サブ項目については「ビジネス法制」で引き続き首位に立ち、「租税政策」「国際投資」「国際貿易」「技術インフラ」でも上位5位以内に入っています。

政府の報道官は「IMDの『2023年世界競争力年鑑』は、香港が引き続き世界で最も競争力ある経済体の1つであると認定した。香港の競争力は『一国二制度』下での独自の制度

的な強みに支えられており、その強みには、コモンロー制度の継続、司法機構による独立した司法権の行使、効率的で透明性の高い市場を備えた良好なビジネス環境、国際ルールに沿った規制制度、効率的でクリーンな政府、簡素で低率な税制、世界クラスの専門サービス、モノおよび人材、資本、情報といった生産要素の自由な流れなどが含まれる」と述べました。

「昨年、新型コロナウイルス感染症の流行が香港に困難な課題をもたらし、経済に重くのしかかった結果、香港の総合順位は前年から2つ下がった。香港が平常を取り戻し、中国本土や世界とのつながりを完全に回復するにつれ、今年は経済の顕著な改善が見込まれる」との見解も示しています。

「ハーバー・チル・カーニバル」で夏を満喫

香港政府観光局主催の「ハーバー・チル・カーニバル」が、7月8日～8月6日の毎週土日に湾仔（ワンチャイ）のハーバーフロントで開催されました。水上ステージでの音楽ライブに世界各地の大道芸、スリル満点のX Games（エクストリームゲームズ）パフォーマンス、光と音のショー「シンフォニー・オブ・ライツ」の花火を使った特別版などが行われ、夏の香港を盛り上げました。



「フードエキスポPRO」に世界の食が集結

日本をはじめ21のパビリオンが出展。各地の食品・飲料の魅力バイヤーに向けて強力アピール

香港貿易発展局が主催する「フードエキスポPRO」が、8月17日から19日まで香港コンベンション&エキシビションセンターで開かれました。バイヤーを主な対象として開催されたこの総合食品展示会では、20カ国・地域の食品や飲料製品を紹介。会場には日本、インドネシア、韓国、メキシコ、ポーランド、タイ、中国本土の各省などが出展した計21のパビリオンが設置されました。

さらに、今回新たに設けられた食品科学技術ゾーンで、革新的な食品加工技術に関する展示が行われたほか、フードテック・シンポジウムではテクノロジーが飲食業界にもたらしている変化について、同分野のスタートアップ企業が論じています。

世界各地のお茶文化を紹介する「香港インターナショナル・ティー・フェア 2023」も、同時開催されました。



ゼンショーホールディングスが「すき家」に続き「はま寿司」を展開

株式会社ゼンショーホールディングスは、6月29日、回転寿司「はま寿司」1号店を佐敦（Jordan）にオープンしました。2019年の牛丼「すき家」を香港に上陸させて以来、同社はビジネスを順調に拡大し、現在8店舗を展開しています。この成功に続き、さらなる成長を目指して、次なるブランド「はま寿司」を持ち込みます。

オープンにあたり、Zensho Hong Kong Co., Ltdのシニアディレクター 林 豊樹氏は次のように語りました。『「はま寿司」では、70種類以上の寿司やサイドメニューなどをお手軽な価格で提供します。タブレット端末や提供レーンを使って、すべての寿司は注文を受けてから作り、お客様のもとへ迅速にお届けします。香港は国際的な市場であり、日本の寿司が大好きな人々で賑わっています。弊社にとって、香港は海外で事業拡大をするのに重要な拠点です。私たちは、香港のお客様に安全でおいしいお寿司をお手軽な価格で提供することをお約束します』



没後50年「ブルース・リー：不朽の名作」展

今なお世界中に多くのファンを持つ永遠のアイコン。香港文化博物館で2つの特集展示が開催中

伝説的な武術のスーパースター、ブルース・リーの没後50年にあたる今年、沙田（シャティン）にある香港文化博物館で新たなポップアップ展「ブルース・リー：不朽の名作」が始まりました。入場無料で来年1月1日まで開催予定です。

同展ではブルース・リーに関する出版物や記念切手、フィギュアなど、さまざまなアイテムを展示。主なものには、映画『ドラゴンへの道』のプレミア上映会で配布されたカード型カレンダー、截拳道（ジークンドー）や出演映画についての出版物、記念写真集、実物大の胸像、武道家そして映画俳優としての足跡をたどった記念切手セットなどがあります。

香港文化博物館では、このポップアップ展に加えて「平凡・非凡ーブルース・リー」展も開催中です。こちらは2021年から開催されており、約400点に上るブルース・リーゆかりの貴重な品々が見られるほか、大規模なマルチメディア展示や対話型プログラムを通して、世界のポップカルチャーに大きな影響を与えたブルース・リーの人生を振り返ることができるようになっています。

香港文化博物館および各展示の詳細は、下記のウェブサイトからご覧ください

hk.heritage.museum



新たなポップアップ展で展示されているブルース・リーの胸像



映画『ドラゴンへの道』プレミア上映会で配布された記念品

「バイタルサイン」展で再会するネオン看板

かつて香港の夜を鮮やかに彩ったネオン看板をテーマとした「バイタルサイン」展が、6月30日から9月3日まで大館（タイクワン）で開催されました。香港を象徴する視覚的アイデンティティであったネオンサインと、その職人の技と創造性に光を当てたこの展覧会は、訪れる人を80年代から90年代のきらびやかな繁華街へと誘いました。



欧慧心首席代表が富山、石川、福岡各県を訪問

香港経済貿易代表部の欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表は、8月に富山県、石川県、福岡県を訪問し、それぞれの県や市、また地元経済界の幹部らと意見を交換しました。



藤井裕久 富山市長
(写真・左から4人目)
を訪問

「日本・大湾区・ベトナムにおけるビジネスコラボレーション」昼食会 LUNCHEON ON BUSINESS COLLABORATION IN JAPAN, GREATER BAY AREA AND VIETNAM 福岡 Fukuoka 30.08.2023



広東香港澳門大湾区企業家連盟、香港中華総商会、香港ベトナム商工会議所が8月30日、福岡で開催したビジネス協力に関する昼食会に出席。(写真・左から) ジェトロ福岡の森則和所長、九州経済連合会の倉富純男会長、欧首席代表、広東香港澳門大湾区企業家連盟主席で香港中華総商会会長の蔡冠深（ジョナサン・チョイ）氏、九州大学の石橋達朗総長、福岡地域戦略推進協議会の麻生泰会長、九州経済フォーラムの石原進会長、九州経済産業局の藤原晋一国際部長



村山卓 金沢市長を訪問



新田八朗 富山県知事を訪問



西垣淳子 石川県副知事を訪問

越後妻有の「香港ハウス」で企画展を開催中

新潟・津南町にある文化交流の場。11月5日までの土日・祝日に音のアートインスタレーションを展開

現在開催されている大地の芸術祭通年プログラム「2023年の越後妻有」の一環として、7月29日から11月5日まで新潟県津南町にある「香港ハウス」で企画展が開催されています。レジャー文化サービス局が主催する香港ハウスは、香港と越後妻有との恒常的な文化交流拠点となる滞在制作兼



香港ハウスでのサウンドアートインスタレーション『ラウンド』



(写真・左から) ツールボックス・パーカッション芸術総監のルイス・シウ氏、「大地の芸術祭」総合ディレクターの北川フラム氏、津南町の桑原悠町長、欧首席代表、レジャー文化サービス局の劉鳳霞（レスリー・ラウ）芸術振興事務所総監

ギャラリー施設で、2018年に制作されました。

今回の企画展では、香港の芸術集団であるツールボックス・パーカッションが中心となり、音をテーマとした作品『再聴：山の音』を展開中です。

欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表は7月29日に行われたオープニングイベントで、香港は多様性を受け入れ、世界との文化交流のあらゆる機会を大切にしていると挨拶しました。

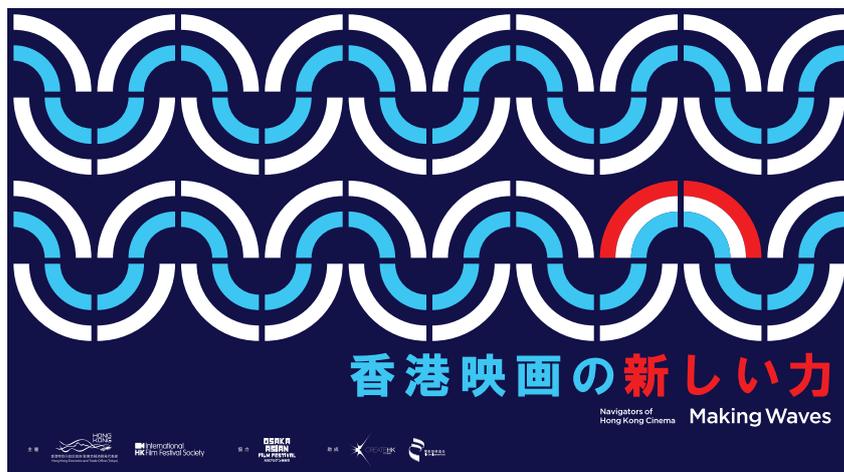
「香港映画祭2023 Making Waves」を今秋開催

11月初めの4日間にわたり東京・恵比寿で開催。香港の2大スター初共演作のジャパンプレミアが決定

香港経済貿易代表部は11月2日から5日まで、東京・恵比寿のYEBISU GARDEN CINEMAで「香港映画祭2023 Making Waves – Navigators of Hong Kong Cinema 香港映画の新しい力」を開催します。昨年11月、香港特別行政区設立25周年を記念して開催された同映画祭は大好評を博しました。

アーロン・クオックとトニー・レオンが初めて共演した話題作『風再起時』をはじめ、多彩な香港映画を上映するほか、来日ゲストによるトークイベントも予定しています。

映画祭についての最新情報は、ウェブサイト makingwaves.oaff.jp でご確認ください。



横浜ドラゴンボートレースの「香港カップ」

香港から参加の中国香港龍舟總會チームが優勝。クイズなどで香港の魅力をPRした代表部のブースも盛況

横浜ドラゴンボートレースが横浜・山下公園で開催され、最終日の6月4日には香港経済貿易代表部が協賛する「香港カップ」レースが行われました。15チームが出場したこのレースを制したのは、香港から来日して参加した中国香港龍舟總會。表彰式では、欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表からトロフィーが授与されました。

1994年に始まった横浜ドラゴンボートレースの今年の大

会は、5月27、28日と6月3、4日の2回の週末にわたって開催され、4日間で計約130チームが熱戦を繰り広げました。「香港カップ」は今大会の最終レースとして実施され、イベントのハイライトの1つとなりました。

香港経済貿易代表部は今年も会場内にブースを設け、レースの観客や公園を訪れる人に香港をPR。香港を実際に訪れて街の活気を肌で感じてほしいと呼びかけるとともに、さまざまな人材受け入れ制度の最新情報を提供しました。代表部ではイベントへの参加を通じて香港と日本の文化交流を促進し、日本人々の香港に対する理解を深めることを目指しています。



欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表（写真・最前列中央）と「香港カップ」入賞3チーム



多くの人でにぎわった香港経済貿易代表部のPRブース

香港のデザイン賞に輝いた製品を東京で展示

香港スマートデザイン大賞を受賞したさまざまな製品を「ライフスタイルWeek【夏】」展で一挙紹介

7月19日から21日まで東京ビッグサイトで開催された総合展示会「ライフスタイルWeek【夏】」で、香港スマートデザイン大賞（HKSDA）の受賞製品が展示されました。ギフト、日用品からおもちゃ、ゲームまで多岐にわたる製品が来場者の注目を集めました。

HKSDAは、香港のデザイン人材の育成・支援を目的に香港輸出商會が主催するデザイン賞です。詳細はウェブサイト sdawards.org.hk でご覧いただけます。



欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表がブースを訪問



◀ホーム&ハウスウェア部門で金賞を受賞した大館（タイクワン）の椅子



▶レジャー&トラベル部門金賞のチャイナドレス風ベスト

香港の国際人材「香港で愛と音楽と喝采を求めて」

チャンスあふれる香港で成功をつかんだ日本人作曲家、波多野裕介氏。映画音楽で賞を取るなど活躍中

香港を拠点に活動する作曲家の波多野裕介氏はこれまで、第36回香港電影金像獎で最優秀オリジナル映画作曲賞を受賞した『ソウルメイト／七月と安生』をはじめ、多くの映画音楽を手がけてきました。同氏は10歳までアメリカで育ち、いったん日本に戻った後、15歳でマレーシア、その2年後にはシンガポールに移住。高校卒業後、18歳でオーストラリアに渡り、そこで後の妻となる香港人女性と出会いました。彼女を追って香港に来てみると、街も彼女のことも大好きになったのです。

誰にでも平等な競争の場

波多野氏は、自身の成功は運と香港が与えてくれたチャンスのおかげだと言います。「私は音楽家ですが、作曲家でもあります。そして日本人であり外国人でもあります。香港に来た当時、これは珍しかったんです。だから運良くたくさんのチャンスに恵まれ、多くの監督、プロデューサーや俳優と出会えました」。政府が芸術、特に映画や音楽産業に対して積極的に助成金を支給していることも自身の成功に大きく貢献したと氏は言います。

もし日本にいたら、これほど早くキャリアアップできなかったかもしれないとも指摘。「香港に来ていなければ、全く別のキャリアを歩んでいたに違いありません。日本の文化は、年功序列で自分の番を待ちます。一方香港では、実力があればすぐにでもチャンスをつかめます」と語りました。

また、香港と世界のつながり、広州などの大湾区都市への

近さもあって、チャンスは香港の先へと広がり、アーティストにとってプロジェクトやパフォーマンスの機会や場が豊富にあると考えています。

地元出身者のように暮らしを楽しむ

波多野氏は香港の活気に満ちた生活を満喫しています。香港に来て11年、香港式大衆食堂の茶餐廳（チャーチャンティン）文化にもすっかり慣れ、大美督（タイムイトク）の海の絶景や緑の山々など自然の景色も楽しんでいます。現在、香港と日本でさまざまなプロジェクトに取り組んでいますが、地元の名物や雰囲気のおかげで、リラックスして準備に取り組むことができます。今後は、日本と香港の文化交流に貢献したいと考えているそうです。



Neo Music Production共同創設者で作曲家の波多野裕介氏

SPOTLIGHT HONG KONG

巨大アヒルが今度は2羽で ビクトリアハーバーに出現

2013年にオランダ人アーティスト、フロレンティン・ホフマン氏の「ラバー・ダック」が香港で一大ブームを巻き起こしてから10年。今回はもう1羽の仲間と共にビクトリアハーバーに現れて、喜びと友好のメッセージを広げました。世界を旅する高さ18メートルの「ダブル・ダックス」は6月中旬に香港で展示され、多くの人を笑顔にしました。



香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部 (香港経済貿易代表部)

〒102-0075 東京都千代田区三番町30番1号 香港経済貿易代表部ビル
Tel : 03-3556-8980 Fax : 03-3556-8970 (代表部)
Tel : 03-3556-8961 Fax : 03-3556-8960 (企業・人材誘致専門室 兼 投資推進室)
E-mail : tokyo_enquiry@hketoty.gov.hk

f www.facebook.com/hketo.tokyo/
@ www.instagram.com/hketo.tokyo/
X www.twitter.com/hketotokyo

香港特別行政区政府
ポータルサイト www.gov.hk

政府広報局提供の
無料ニュースサービス www.news.gov.hk

ブランド香港
Facebookページ www.facebook.com/brandhk.isd

香港経済貿易代表部の
ホームページです!

www.hketoty.gov.hk

